

グローバル株式トップフォーカス

設定日：2016年3月31日

償還日：無期限

決算日：原則、毎年3月15日

収益分配：決算日毎

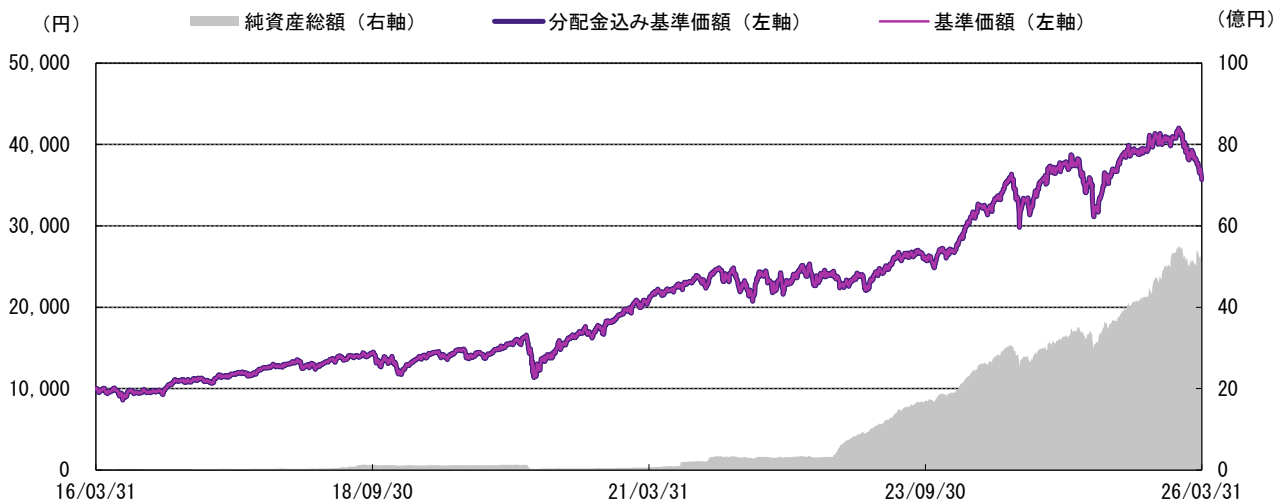
基準価額：35,690円

純資産総額：50.92億円

※当レポートでは基準価額および分配金を1万口当たりで表示しています。
 ※当レポート中の各数値は四捨五入して表示している場合がありますので、それを用いて計算すると誤差が生じることがあります。
 ※当レポートのグラフ、数値等は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

運用実績

＜基準価額の推移＞



※分配金込み基準価額の推移は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものととして計算した理論上のものである点にご留意ください。
 ※基準価額は、信託報酬（後述の「手数料等の概要」参照）控除後の値です。

＜基準価額の騰落率＞

1カ月	3カ月	6カ月	1年	3年	設定来
-8.13%	-12.61%	-9.22%	1.62%	54.24%	256.90%

※基準価額の騰落率は、当ファンドに分配金実績があった場合に、当該分配金（税引前）を再投資したものととして計算した理論上のものである点にご留意ください。

＜分配金実績（税引前）＞

22・3・15	23・3・15	24・3・15	25・3・17	26・3・16
0円	0円	0円	0円	0円

※分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。

＜資産構成比率＞

アモーヴァ・グローバル・エクイティ・ファンド クラスP	97.8%
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1%

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



アモーヴァ・グローバル・エクイティ・ファンド クラスP

※アモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッドより提供された情報です。

※以下は当外国投資信託における数値です。比率は当外国投資信託の純資産総額比です。

※「組入上位10銘柄」は、個別銘柄の取引を推奨するものでも、将来の組入れを保証するものでもありません。

<資産構成比>

株式	98.5%
現金その他	1.5%

<組入上位10カ国>

アメリカ	59.4%
日本	8.6%
イギリス	5.6%
スウェーデン	3.9%
中国	2.4%
ブラジル	2.4%
スペイン	2.4%
オランダ	2.4%
フランス	2.4%
シンガポール	2.3%

<組入上位10通貨>

アメリカドル	66.9%
ユーロ	10.7%
日本円	8.6%
スウェーデンクローナ	3.9%
イギリスポンド	2.8%
シンガポールドル	2.3%
インドルピー	2.2%
香港ドル	1.7%
豪ドル	0.9%

<組入上位10業種>

情報技術	24.4%
金融	21.8%
ヘルスケア	13.2%
資本財・サービス	13.1%
一般消費財・サービス	12.0%
生活必需品	7.9%
コミュニケーション・サービス	3.5%
素材	2.6%

<規模別構成比率>

時価総額	比率
超大型株（500億米ドル以上）	61.3%
大型株（100億米ドル以上500億米ドル未満）	25.1%
中型株（20億米ドル以上100億米ドル未満）	12.1%
小型株（20億米ドル未満）	0.0%

<組入上位10銘柄>（組入銘柄数：42銘柄）

	銘柄	国名	業種	比率
1	エヌビディア	アメリカ	情報技術	7.8%
2	マイクロソフト	アメリカ	情報技術	5.5%
3	アマゾン・ドット・コム	アメリカ	一般消費財・サービス	5.5%
4	ブロードコム	アメリカ	情報技術	3.6%
5	ネットフリックス	アメリカ	コミュニケーション・サービス	3.5%
6	コカ・コーラ・ユーロパシフィック・パートナーズ	イギリス	生活必需品	2.8%
7	コンパスグループ	イギリス	一般消費財・サービス	2.8%
8	USフーズ・ホールディング	アメリカ	生活必需品	2.7%
9	マスターカード	アメリカ	金融	2.7%
10	リンデグループ	アメリカ	素材	2.6%

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を深めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



運用コメント

※運用方針等は作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

◎市場環境

米国株式市場は、前月末と比べて下落しました。米国・イスラエルとイランの軍事衝突の長期化懸念を背景とした原油高に伴うインフレ圧力が強まったことや、米国の雇用統計が低調な内容となり景気の先行き不透明感が広がったこと、米国連邦準備制度理事会（FRB）が米国連邦公開市場委員会（FOMC）において政策金利を据え置き、今後の追加利下げに慎重な姿勢を示したことや米国の長期金利が上昇したことが重しとなり、株価は下落しました。

欧州株式市場は、前月末と比べて総じて下落しました。ユーロ圏とドイツの製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値が市場予想を上回ったことなどが株価の支援材料となったものの、米国・イスラエルとイランの軍事衝突の長期化懸念を背景とした原油高に伴うインフレ圧力が強まったことに加え、欧州中央銀行（ECB）高官の発言などからECBによる利上げ観測が高まったことや欧米の長期金利が上昇したことを受けて、株価は総じて下落しました。

3月の国内株式市場は、東証株価指数（TOPIX）が前月末比マイナス11.19%、日経平均株価が同マイナス13.23%となりました。米国・イスラエルとイランの軍事衝突の長期化懸念を背景とした原油高に伴うインフレ圧力が強まったことや、米国連邦公開市場委員会（FOMC）の結果を受けて米国連邦準備制度理事会（FRB）による利下げ期待が後退したこと、公表された金融政策決定会合の主な意見において、原油価格の上昇や円安が物価高を進行させる可能性が指摘され日銀による早期利上げが意識されたことなどから、国内株式市場は下落しました。

東証33業種分類では、鉱業、海運業の2業種が上昇する一方、空運業、ゴム製品、機械などの31業種が下落しました。

◎運用概況

3月は地政学的要因が市場を支配しました。イランを巡る緊張の高まりと、世界の原油輸出の約5分の1が通過するホルムズ海峡の戦略的利用が、市場全体で急激な価格再評価を引き起こしました。エネルギーセクターは、供給リスクが急速に再評価されるなか大幅に上昇した一方、世界の株式市場は大幅に下落しました。当ファンドでは、エネルギーセクターの株を保有していなかったことが、パフォーマンス不振の一因となりました。

市場は当初、政治的な思惑から、紛争が短期的で象徴的なものにとどまると想定していましたが、月が進むにつれてその想定は揺らぎ始め、投資家は大型株の出遅れ銘柄に相対的な安全性を求めました。また、ディフェンシブセクターである公益事業セクターも堅調に推移しました。一方、年初来で堅調に推移していた、資本財、素材、消費関連などの景気循環型のセクターの一部は軟調に推移しました。エネルギー価格の上昇は、景況感、利益率、家計の購買力を圧迫する要因としてますます認識されるようになりました。個別銘柄では、SMC、エピロック、インターザ・サンパオロ、ロレアル、コカ・コーラ・ユーロパシフィック・パートナーズを含む幅広い景気循環型の銘柄が、相対的に軟調に推移しました。

紛争による影響の非対称性が目立ち、欧州、日本、インドなどのエネルギー輸入国は比較的軟調に推移した一方、ラテンアメリカの多くの国を含むエネルギー資源国は比較的堅調に推移しました。当月の市場のメッセージは明確で、地政学的リスクが高まりインフレの先行き不透明感が強まる環境下では、金利感応度の高い資産の保有コストが上昇し、実物資産が選好されました。

◎今後の見通し

過去1年間の困難を経て、今後の道筋はより明確になりつつあります。バリュエーションの格差は正常化しつつあり、投資スタイルの極端な偏りによって生じた逆風は薄れ始めています。

技術革新は不可欠ですが、物理的な能力に取って代わることはできず、AI（人工知能）を使ってもエネルギーや肥料、重要な部品を生み出すことはできません。産業の厚み、製造能力、エネルギー安全保障を維持している国は構造的に優位に立っており、オールドエコノミー（伝統的産業）が再び存在感を示し始めています。そのような特性を持つ銘柄は、物理的資産を持ち（Heavy Assets）陳腐化リスクが低い（Low Obsolescence）企業として、「HALO」銘柄と呼んでいます。「HALO」銘柄は市場のボラティリティ（変動性）が高まるにつれて重要性を増しており、地政学的リスクがこの見方を強く後押ししています。

イラン紛争は、エネルギー市場、国家財政、世界のサプライチェーン、そして家計の耐性に同時に負担をかけ、エネルギー安全保障が依然として最も影響力のあるマクロ要因の一つであることを投資家に再認識させました。

AI関連の恩恵を受ける複数の企業のバリュエーションには、ほぼ完璧な実行と途切れない設備投資の成長という前提が織り込まれています。同時に、米国で計画されていた巨額のデータセンター投資が遅延または阻止されるなど、物理的なボトルネックや、電力、送電網へのアクセス、許認可が、投資テーマを決定づける要因となりつつあります。これらのボトルネックを解消することは大きなビジネスとなり、当ファンドにおける投資判断を支える要因となっています。しかし、バリュエーションにはこれらの機会の多くが既に織り込まれています。当ファンドは、より魅力的な投資機会が他に存在すると判断しています。

市場は「AIの敗者」と見なされる企業に一律の評価を下す傾向があり、その結果、市場に実質的な価格の歪みが生じています。過去3ヵ月間、当ファンドではポートフォリオの見直しを進め、悪材料が強まった企業から撤退し、過度に悲観されている企業に資本を再配分しました。AIの設備投資サイクルは、成長率は低下するものの継続し、特に景気循環リスクが既にバリュエーションに織り込まれている支配的なフランチャイズが恩恵を受けるとみています。AI以外では、防衛、エネルギーインフラ、国内回帰などが引き続き重要な投資テーマとなっています。

ボトルネックはますます地政学的手段として利用されており、中国はレアアース、米国はドル資金、イランはホルムズ海峡を戦略的に活用しています。効率性を優先して最適化されたサプライチェーンは脆弱です。こうした状況では、インフレ耐性のある資産と下方リスクを抑えた成長への分散が不可欠です。価格決定力、有能な経営陣、健全なバランスシート、見過ごされがちな耐久資産を重視する「フューチャー・クオリティ」の投資哲学は、景気循環を乗り切る有効な手段の一つであり、2026年においてその規律はこれまで以上に重要性を増しています。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額
は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読み
ください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



ご参考情報

※「組入上位銘柄の銘柄概要」は、個別銘柄の取引を推奨するものでも、将来の組入れを保証するものでもありません。

※記載の見解等は、アモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッド による作成基準日現在のものであり、将来の市場環境の変動等により変更される場合があります。

<組入上位10銘柄の銘柄概要>

1	エヌビディア
データセンターにおける人工知能処理専用の半導体や、テレビゲームや自動運転向け半導体を開発する大手企業。GPU、CPU、DPUと呼ばれる演算装置と関連ソフトウェアの組み合わせにより独占的な市場シェアを持つ。人工知能が普及する新時代で、データセンターへの投資競争から恩恵を受け、未来の経済構造を転換する非常に良い立場にある。	
2	マイクロソフト
世界最大規模のテクノロジー企業。商用クラウドサービスの強化により、ソリューション・プロバイダーとしての有力なポジションを確立し、利益率、キャッシュフロー創出力を高めることに成功している。また、積極的な二酸化炭素排出量削減目標を通してESGを強化するとともに、プライバシーやデータ規制への対応においても業界をリードしている。	
3	アマゾン・ドット・コム
オンライン小売企業で、AWS事業を通じクラウドでも主導的な地位。企業クラウド利用率はまだ低く、成長の余地。一方、雇用と設備投資のコスト規律を重視し始めており、コロナ関連での巨額投資の終焉と相まり、利益率上昇が期待される。GHG削減で他社をリードし、包装の削減を通じ、2025年までに再生可能エネルギー100%の運営を目指す。	
4	ブロードコム
IT分野の世界的大手で様々な半導体の設計・製造、企業向けやセキュリティ用ソフトウェアを手掛ける。半導体市場の安定的・長期的成長から恩恵を受け、高利益率ながら具体性のある人工知能関連売上を有し、配当利回りも魅力的である。同社の製品・サービスはイノベーションを支える重要な役割を果たしており、未来の経済への移行を促すものである。	
5	ネットフリックス
190カ国に2億人以上の有料会員を持つ動画配信サービスの最大手。平均視聴時間が競合他社に比べて長く、コンテンツに対する評価も高い。パスワード共有禁止や広告付きプラン導入などの契約モデルの大幅な刷新に着手している。また、二酸化炭素排出量は参考ベンチマークと比較して低い水準にある。	
6	コカ・コーラ・ユーロパシフィック・パートナーズ
Coca-Colaの最大ボトラー。2021年にCoca-Cola AmatilやフィリピンでCoca-Colaのボトリング事業を買収。売上の多様化に成功し、長期的な成長が期待されます。フィリピンでは、2800以上のリサイクル回収所を開設し、年間20億本のPETボトルを処理できる初の食品用PETリサイクル施設を建設しました。	
7	コンパスグループ
食品配達と食品サービスのアウトソーシングにおける世界的なリーディング企業である。優れた専門性と強力なバランスシートを有している。食品アウトソーシング市場の普及率は高くなく、伸びしろは大きい。長期的な食品価格の上昇と健康志向など消費者の嗜好の変化は同社にとって追い風となっている。	
8	USフーズ・ホールディング
全米に配送網を持つレストラン、ヘルスケア向けの米国大手フードサービス卸。高マージンの独立系レストラン向け構成比やPB比率の上昇、コスト効率改善により収益性と投下資本利益率が向上。2023年以降は規律ある経営の下、シェア獲得、キャッシュ創出、財務基盤強化が進展。サステナビリティ施策も長期成長を後押し。	
9	マスターカード
消費者・法人向けに安全な電子取引を可能にするグローバル決済ネットワークを運営。強固なネットワーク効果と世界規模を背景に手数料収益とキャッシュフローを創出。また、新たな決済フローやデータ活用型サービスの拡大が成長をけん引し。強固なバランスシートを維持しつつ、決済セキュリティへの継続投資を通じて新興国の金融高度化にも貢献。	
10	リンデグループ
世界最大級の産業ガス供給会社で、安全、クリーン、手頃な価格のエネルギーを供給する。2019年のPraxairとの合併により、競争力を高め、インフレ圧力、高水準の設備投資、顧客からの専門的な要求などへの対応力を高めている。エネルギートランジションにおいて、スケールメリットと積極的な対応により、今後の成長の加速が期待される。	

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めることを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。





世界の株式を投資対象として厳選投資を行いません。

- 日本や新興国を含む世界の株式（DR（預託証券）を含みます。）を主な投資対象とし、投資スタイル（グロースやバリュー）、国・セクターなどにとらわれることなく、相対的に魅力があると判断される40～60程度の銘柄に厳選投資します。
- 高収益の実現・維持には、ESG（環境・社会・ガバナンス（企業統治））を考慮した経営が不可欠として、ESGの総合評価を重視した銘柄選択を行いません。また、組入銘柄全体としての売上高当たり温室効果ガス排出量を、主要な世界株指数における水準の8割以下に抑えることをめざします。
- 外貨建資産への投資にあたっては、原則として為替ヘッジは行いません。



アモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッドが実質的な運用を担当します。

- 株式運用において実績を持つアモーヴァ・アセットマネジメント・UKリミテッドのグローバル株式運用チームが、当ファンドの主な投資対象である「アモーヴァ・グローバル・エクイティ・ファンド クラスP」の運用を行いません。

当ファンドでは、事業に投じた資金に対して効率的に高い利益を生みだし、それを持続することができる企業を『**フューチャー・クオリティ企業**』と呼び、魅力的な投資対象と考えています。

※市況動向および資金動向などにより、上記のような運用が行えない場合があります。

● 当ファンドは「ESG投信」です

- ・当ファンドは、全ての組入銘柄の選定においてESGを主要な要素としており、アモーヴァ・アセットマネジメントが「金融商品取引業者等向けの総合的な監督指針」を踏まえて定めた「ESG投信」です。
- ・独自のESG総合評価を行なうことを義務としているほか、ポートフォリオ全体としての温室効果ガス排出量の抑制を目標に掲げています。

※詳細は、投資信託説明書（交付目論見書）をご参照ください。

投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産は為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。後述のリスク情報とその他の留意事項をよくお読みください。

■当資料は、投資者の皆様にご理解を高めていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。掲載されている見解は、当資料作成時点のものであり、将来の市場環境や運用成果などを保証するものではありません。



■お申込みメモ

商品分類	追加型投信／内外／株式
購入単位	販売会社が定める単位 ※販売会社の照会先にお問い合わせください。
購入価額	購入申込受付日の翌営業日の基準価額
信託期間	無期限(2016年3月31日設定)
決算日	毎年3月15日(休業日の場合は翌営業日)
収益分配	毎決算時に、分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向などを勘案して決定します。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。 ※将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。
換金価額	換金申込受付日の翌営業日の基準価額
購入・換金申込不可日	販売会社の営業日であっても、下記のいずれかに該当する場合は、購入・換金の申込みの受付は行ないません。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ・英国証券取引所の休業日 ・ニューヨーク証券取引所の休業日 ・ロンドンの銀行休業日 ・ニューヨークの銀行休業日 ・ルクセンブルクの銀行休業日
換金代金	原則として、換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。
課税関係	原則として、分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の差益は課税の対象となります。 ※課税上は、株式投資信託として取り扱われます。 ※公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に少額投資非課税制度(NISA)の適用対象となります。 ※当ファンドは、NISAの「成長投資枠(特定非課税管理勘定)」および「つみたて投資枠(特定累積投資勘定)」の対象ですが、販売会社により取扱いが異なる場合があります。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※配当控除の適用はありません。 ※益金不算入制度は適用されません。

■手数料等の概要

投資者の皆様には、以下の費用をご負担いただきます。

<申込時、換金時にご負担いただく費用>

購入時手数料	購入時の基準価額に対し3.3%(税抜3%)以内 ※購入時手数料は販売会社が定めます。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。 ※収益分配金の再投資により取得する口数については、購入時手数料はかかりません。
--------	---

換金手数料

ありません。

信託財産留保額

ありません。

<信託財産で間接的にご負担いただく(ファンドから支払われる)費用>

運用管理費用 (信託報酬)	純資産総額に対し年率1.238%(税抜1.13%)程度が実質的な信託報酬となります。
------------------	--

信託報酬率の内訳は、当ファンドの信託報酬率が年率1.188%(税抜1.08%)、投資対象とする投資信託証券の組入れに係る信託報酬率が年率0.05%程度となります。

受益者が実質的に負担する信託報酬率(年率)は、投資対象とする投資信託証券の組入比率や当該投資信託証券の変更などにより変動します。

その他の費用・手数料

目論見書などの作成・交付および計理等の業務に係る費用(業務委託する場合の委託費用を含みます。)、監査費用などについては、ファンドの日々の純資産総額に対して年率0.1%を乗じた額の信託期間を通じた合計を上限とする額が信託財産から支払われます。

組入る有価証券の売買委託手数料、資産を外国で保管する場合の費用、借入金の利息および立替金の利息などがその都度、信託財産から支払われます。

※運用状況などにより変動するものであり、事前に料率、上限額などを表示することはできません。

※投資者の皆様にご負担いただくファンドの費用などの合計額については、保有期間や運用の状況などに応じて異なりますので、表示することができません。

※詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。

■委託会社、その他関係法人

委託会社	アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社
受託会社	三井住友信託銀行株式会社
販売会社	販売会社については下記にお問い合わせください。 アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社 〔ホームページ〕 www.amova-am.com 〔コールセンター〕 0120-25-1404 (午前9時～午後5時。土、日、祝・休日は除く。)

■お申込みに際しての留意事項

○リスク情報

投資者の皆様は投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者(受益者)の皆様へ帰属します。なお、当ファンドは預貯金とは異なります。

当ファンドは、主に株式を実質的な投資対象としますので、株式の価格の下落や、株式の発行体の財務状況や業績の悪化などの影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。また、外貨建資産に投資する場合には、為替の変動により損失を被ることがあります。

投資対象とする投資信託証券の主なリスクは以下の通りです。

【価格変動リスク】

- ・株式の価格は、会社の成長性や収益性の企業情報および当該情報の変化に影響を受けて変動します。また、国内および海外の経済・政治情勢などの影響を受けて変動します。ファンドにおいては、株式の価格変動または流動性の予想外の変動があった場合、重大な損失が生じるリスクがあります。
- ・新興国の株式は、先進国の株式に比べて価格変動が大きくなる傾向があり、基準価額にも大きな影響を与える場合があります。
- ・公社債は、金利変動により価格が変動するリスクがあります。一般に金利が上昇した場合には価格は下落し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。ただし、その価格変動幅は、残存期間やクーポンレートなどの発行条件などにより債券ごとに異なります。

【流動性リスク】

- ・市場規模や取引量が少ない状況においては、有価証券の取得、売却時の売買価格は取引量の大きさに影響を受け、市場実勢から期待できる価格どおりに取引できないリスク、評価価格どおりに売却できないリスク、あるいは、価格の高低に関わらず取引量が限られてしまうリスクがあり、その結果、不測の損失を被るリスクがあります。
- ・新興国の株式は、先進国の株式に比べて市場規模や取引量が少ないため、流動性リスクが高まる場合があります。

【信用リスク】

- ・投資した企業の経営などに直接・間接を問わず重大な危機が生じた場合には、ファンドにも重大な損失が生じるリスクがあります。デフォルト（債務不履行）や企業倒産の懸念から、発行体の株式などの価格は大きく下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・公社債および短期金融資産の発行体にデフォルト（債務不履行）が生じた場合またはそれが予想される場合には、公社債および短期金融資産の価格が下落（価格がゼロになることもあります。）し、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。また、実際にデフォルトが生じた場合、投資した資金が回収できないリスクが高い確率で発生します。

【為替変動リスク】

- ・外貨建資産については、一般に外国為替相場が当該資産の通貨に対して円高になった場合には、ファンドの基準価額が値下がりする要因となります。
- ・一般に新興国の通貨は、先進国の通貨に比べて為替変動が大きくなる場合があります。

【カントリー・リスク】

- ・投資対象国における非常事態など（金融危機、財政上の理由による国自体のデフォルト、重大な政策変更や資産凍結を含む規制の導入、自然災害、クーデターや重大な政治体制の変更、戦争など）を含む市況動向や資金動向などによっては、ファンドにおいて重大な損失が生じるリスクがあり、投資方針に従った運用ができない場合があります。
- ・一般に新興国は、情報の開示などが先進国に比べて充分でない、あるいは正確な情報の入手が遅延する場合があります。

【ESG投資に関するリスク】

- ・ESG特性を重視して投資を行なうため、ファンドの基準価額の値動きは市場全体の値動きと異なる場合があります。その結果、ファンドの基準価額は大きく変動する場合があります。

※ファンドが投資対象とする投資信託証券は、これらの影響を受けて価格が変動しますので、ファンド自身にもこれらのリスクがあります。

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

○その他の留意事項

- ・当資料は、投資者の皆様へ「グローバル株式トップフォーカス」へのご理解を高めさせていただくことを目的として、アモーヴァ・アセットマネジメントが作成した販売用資料です。
- ・当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- ・投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また、銀行など登録金融機関で購入された場合、投資者保護基金の支払いの対象とはなりません。
- ・分配金は、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。分配金は、計算期間中に発生した運用収益を超えて支払われる場合があります。投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。
- ・当ファンドの運用プロセスにて定める「GHG（温室効果ガス）排出量の抑制」に資する銘柄が著しく減少した場合には、運用プロセス自体を見直すことがあります。その際、暫定的に運用プロセスを遵守できなくなる可能性や当ファンドが想定するパフォーマンスと異なる可能性があります。
- ・当ファンドの運用プロセスにおいてESG評価機関などから提供されるデータを活用する場合がありますが、当該データは投資対象となる企業の情報開示が不十分などの理由により完全性・即時性を確保できないことがあります。
- ・投資信託の運用による損益は、すべて受益者の皆様に帰属します。当ファンドをお申込みの際には、投資信託説明書（交付目論見書）などを販売会社よりお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、お客様ご自身でご判断ください。

設定・運用は **アモーヴァ・アセットマネジメント株式会社**
 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第368号
 加入協会：一般社団法人資産運用業協会

投資信託説明書(交付目論見書)のご請求・お申込みは

金融商品取引業者等の名称	登録番号	加入協会				
		日本証券業協会	一般社団法人資産運用業協会	一般社団法人金融先物取引業協会	一般社団法人第二種金融商品取引業協会	
あかつき証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第67号	○	○		
株式会社イオン銀行 (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長（登金）第633号	○			
株式会社岩手銀行	登録金融機関	東北財務局長（登金）第3号	○			
株式会社SBI証券 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第44号	○	○	○	○
株式会社SBI新生銀行 (委託金融商品取引業者 株式会社SBI証券) (委託金融商品取引業者 マネックス証券株式会社)	登録金融機関	関東財務局長（登金）第10号	○		○	
大和証券株式会社 ※右の他に一般社団法人日本STO協会にも加入	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第108号	○	○	○	○
PayPay銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第624号	○		○	
北洋証券株式会社	金融商品取引業者	北海道財務局長（金商）第1号	○			
松井証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第164号	○		○	
マネックス証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第165号	○	○	○	○
三井住友信託銀行株式会社	登録金融機関	関東財務局長（登金）第649号	○	○	○	
三菱UFJ eスマート証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第61号	○	○	○	○
m o o m o o証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第3335号	○	○	○	○
楽天証券株式会社	金融商品取引業者	関東財務局長（金商）第195号	○	○	○	○

※上記販売会社情報は、作成時点の情報に基づいて作成しております。

※販売会社によっては取扱いを中止している場合がございます。